

2024年4月5日 出光興産株式会社

世界トップクラスの技術を有する 東京大学先端科学技術研究センターおよび生産技術研究所と、 カーボンニュートラル領域における包括連携共同研究を開始

出光興産株式会社(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:木藤 俊一、以下「当社」)は、国立大学法人東京大学先端科学技術研究センター(東京都目黒区、所長:杉山正和、以下「東大先端研」)および生産技術研究所(東京都目黒区、所長:年吉 洋、以下「東大生研」)と包括連携研究に関する協定を締結し、4月1日から共同研究を開始しました。当共同研究では、当社の重点課題であるカーボンニュートラル領域における次世代技術の開発に取り組みます。



共同研究キックオフセレモニーにて

左から、東大先端研所長 杉山 正和、当社執行役員 西村 公一、東大生研所長 年吉 洋(敬称略)

東大先端研は理工系の先端技術、社会科学、社会システムなど多様な分野における研究を行い、社会課題の解決に向けた先端科学技術の新領域の開拓および科学技術の発展を目指しています。また、東大生研は工学のほぼ全分野を包含する総合工学研究所であり、真理探究を基本としつつ、垣根のない分野横断、実践的な産学連携、社会実装を目指した実学的な研究など、幅広い研究を進めています。

当共同研究は、世界トップクラスかつ幅広い技術を保有する両部局との連携により、カーボンニュートラル領域における研究活動を加速させ、革新技術の創出を目指すものです。具体的には、新たな社会実装テーマの創出、東大先端研と東大生研の保有技術(二酸化炭素の分離・回収・利用技術など)を活用したテーマ調査、電解合成や蓄電用の次世代

電極触媒開発などに関する技術獲得を 3 年かけて行います。特に、新たな社会実装テーマ 創出活動を重要課題と位置づけ、多くの教授陣の知見や技術と当社の保有する技術を融合 させ進めていきます。将来的には、電化・電動化やバイオ領域の素材などに関する要素技 術開発や、エネルギー・食糧セキュリティーなどの社会課題にも貢献できるテーマにも取り組むことを構想しています。また、当社の研究員を派遣することで人的交流も行い、人 材育成も図っていきます。

当社はこれまでも、NEDO(国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構)のグリーンイノベーション基金事業に採択された「常温、常圧下アンモニア製造技術の開発」など個別テーマにおいて、国立大学法人東京大学と連携してきました。こうした個別テーマの共同研究を継続するとともに、両部局との包括連携協定のもと、より広いテーマを対象に多くの参加者による新たな共同研究を実行していきます。

当社は、中期経営計画(対象年度: 2023~2025 年度)で掲げた 2050 年ビジョン「変革をカタチに」のもとで事業構造改革を進めています。カーボンニュートラル・循環型社会の実現に資する新規事業を創出し社会実装を推進するためには、社内外の技術融合が必須です。社外連携の一環として、今後もオープンイノベーションを推進し、革新技術の開発に注力していきます。

本取り組みは当社が掲げる 2050 年のカーボンニュートラル社会の実現に向けた3つの事業領域のうち「一歩先のエネルギー」「多様な省資源・資源循環ソリューション」の社会実装に向けた取り組みです。



【参考】

■東京大学先端科学技術研究センター

学術の発展と社会の変化から生じる新たな課題へ挑戦し、新領域を開拓することによって科学技術の発展に貢献することを使命とする研究所として、1987年に設立。教

授・准教授を含め、約 150 名の教員と約 300 名の大学院学生が、環境・エネルギーや 材料など大きく6 つのカテゴリーのもと研究活動を展開しています。

https://www.rcast.u-tokyo.ac.jp/

■東京大学生産技術研究所

「技術の実際問題を取り上げ、各専門知識を総合的に研究して実用化する」ことを使命に 1949 年に発足。産学連携・社会連会のパイオニアとして、ものづくり・ことづくりなど「創る」ことに関わる Industrial Science の開拓と教育を担ってきました。現在、約 240 名の教員と約 900 名の大学院学生等が地球規模から量子レベルまで工学のほぼ全域を対象に、5 つの研究部門で研究活動を展開しています。

https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/

~ 本件に関するお問い合わせ先 ~

出光興産株式会社 広報部広報課

https://www.idemitsu.com/jp/contact/advertising_flow/index.html